

1 教育目標（目ざす児童像含む）

○ よく考え、学ぶ子ども（知） ○ 自分を見つめ、つくせる子ども（徳） ○ 明るく、たくましい子ども（体）
 ～ かしこく・やさしく・たくましく ～

2 学校経営の理念（目ざす学校像含む）

自他の幸せの実現を目指し、変化の激しい21世紀を力強く生き抜くたくましい子どもの育成を目指す。そのために学習面においては、きめ細かな指導により基礎基本の徹底を図るとともに、認め合い、学び合う集団づくりに努める。生活面においては、積極的なあいさつの励行や時と場に応じた言葉遣いの指導など、礼儀正しく、誰に対しても真心をもって接する態度を育てる。また、地域、保護者との一層の連携を図り、地域に開かれた信頼される学校づくりに尽力する。

3 学校経営の方針（中期的視点）

- ・「上河内地区小中一貫教育・地域学校園」における児童生徒健全育成のテーマに沿って、本校を取り巻く地域の教育力を最大限生かした教育活動を展開する。
- ・あらゆる教育活動において、自分の考えを堂々と表現できる力の育成に努める。
- ・授業における個に応じたきめ細かな学習指導と、学習形態や意見交換の場の工夫による児童相互の学び合う環境づくりに努める。
- ・基本的生活習慣の徹底を図り、気持ちのよいあいさつや返事ができる、思いやりの心にあふれる児童の育成を図る。
- ・魅力ある学校づくり地域協議会等、学校支援者や支援団体との連携強化により、地域の特色を生かした学校運営に努める。

4 今年度の重点目標（短期的視点）

～基礎基本を身につけ、主体的に学ぶ子どもの育成～

- （学校運営）・地域の教育力を生かした、開かれた学校を目指す。
- ・教職員の資質向上を図り、信頼される学校を目指す。
 - ・特別支援教育の理解の徹底と、個に応じた指導の充実を目指す。
- （学習指導）・言語活動を通じた思考力、判断力、表現力の育成
- ・小中一貫乗り入れ授業を通じた、学習面で解決を図る課題の明確化
 - ・効果的な家庭学習による主体的な学習習慣の定着化
- （児童指導）・学校や社会のルールやマナーを守り、相手のことを考えて生活できる児童の育成
- ・基本的生活習慣を身につけ、ルールを守って行動する児童生徒の育成
- （健康・体力）・自分の体に関心もち、進んで健康・体力の向上に励む児童の育成
- ・教科体育の充実と水泳検定票の工夫

5 自己評価（Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校全体に活気があり、明るく生き生きした雰囲気である。〔全〕 【数値指標 全体アンケート 「私は今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 93.2%	① 「かしこく、やさしく、たくましく」の合言葉の浸透を図り、笑顔と活気のある楽しい学校づくりを進める。	A	A1について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 93.2%，保護者 97.2%で指標を達成した。 ・①については、児童昇降口の壁面に常時合言葉を掲示し、児童の目に触れるようにすることで意識づけを図っている。また、学校行事等でも、合言葉を実現させる機会を意図的に設け保護者や地域に浸透させるように取り組んできた。 【次年度の方針】
		② 学校行事では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、明るく生き生きと取り組ませる。	B	

「学校全体に活気があり、明るくいきいきした雰囲気である。」 ⇒保護者肯定的回答80%以上 保護者 97.2%	③ Q-Uの結果を分析し、支援が必要な児童を把握したり、日頃の観察をきめ細かに行ったりして児童一人一人が生き生きと学校生活を送ることができる学級経営を行う。	B	・①については、合言葉のさらなる浸透を図るとともに、活気のある雰囲気が醸成できるよう、縦割り班活動や食農体験など児童が主体的に活動できる様々な取組を学校全体で推進していく。 ・②③継続
A2 教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「先生は大切なことを熱心に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 95.5% 「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者肯定的回答80%以上 保護者 94.7%	① 学級を学びに向かう集団に高めながら、児童一人一人が自らの力で様々な不適応を解消し、意欲的に学習活動に取り組めるように指導・援助する。 ② 職務の遂行に当たっては、キャリアや専門性、特性を生かし、見通しをもって創意ある取組を目指す。 ③ 保護者や地域住民へ、児童の様子の紹介や協力依頼の発信など進んでコミュニケーションをとり学校教育の理解を促す。 ④ 来校者・電話・連絡帳などでの問い合わせには、速やかに丁寧に対応する。 ⑤ 服務規律を守り、信頼される教職員を目指す。	A A A B B	A2 について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率95.5%、保護者94.7%で指標を達成した。 ・①～⑤のいずれの取組も一定の成果が上っている。しかし児童も保護者も肯定的回答は昨年度より2%程度下がった。 【次年度の方針】 ・①については、児童が意欲的に学習に取り組めるための効果的な指導方法について、教職員の共通理解が図れるような場と時間の確保に努める。 ・②については、教職員の学校経営への参画意識を高めるとともに、一人一人が職務における達成課題を明確にして取り組んでいくように努める。 ・③については、情報発信のための各種便りの内容充実にも努めていくとともにホームページからの情報発信にも努めていきたい。 ・④⑤については、継続して、児童、保護者、地域住民からの信頼を得られるように、全職員が誠意をもって取り組んでいくようにする。
A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 91.4% 「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒保護者肯定的回答80%以上 保護者 91.9%	① 児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう、その姿を「よい子の生活」に示し、学習と生活のきまりの徹底に努める。 ② 生活当番は、秩序があり安全な学校生活を実践できるよう週生活目標を設定し、掲示や放送、校内巡視などを行って意識づけをする。 ③ 避難訓練(火災・地震・不審者)、交通安全教室、防犯教室の実施や、「子ども110番の家」への理解等を通して、危機管理能力を高める。	B A A	A3 について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率91.4%、保護者91.9%で指標を達成した。特に児童の肯定的回答率は4%上昇した。 ・②については、生活当番の教員が週の生活目標を設定し、秩序の維持に努めた。 ・③については、昨年度に続き緊急時児童引き渡し訓練を実施し、緊急発生時に備えた。 【次年度の方針】 ・①については、次年度も「よい子の生活」が守れているかどうかについて定期的に振り返る機会を設けるようにする。 ・②については、生活当番の教員が巡視したり、必要に応じて放送で注意を促したり、児童指導主任に報告したりして、共通理解を図り指導に役立てていく。 ・③については、次年度も今年度とは設定を変えた内容で引き渡し訓練を実施し、危機意識を高めていく。
A4 教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート	① 授業のねらいを明確にし、児童の関心や理解を促す教材開発や分かる授業のための指導法の工夫に努めると共に、共有化を図る。	A	A4 について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率93.2%、保護者90.5%で指標を達成した。 ・①②における指導法の工夫や個に応じた指導など、学力向上のための各種の取り組み

「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 93.2% 「教職員は児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 90.5%	② 習熟度別学習や少人数指導、TT指導、かがやきルームやなかよし学級での個別指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導をする。	A	に対する理解をさらに深めていきたい。 ・②については、担任と担当者間で情報交換を密にして教材研究を入念に行い、分かる授業の工夫・改善に努めてきた。 【次年度の方針】 ・①②ともに、保護者や地域住民に積極的に授業を公開し、本校の学力向上への取組について、さらなる周知を図る。 ・習熟度別学習や少人数指導については、単元の学習内容に適した指導形態を柔軟に取り入れることで、児童一人一人へのきめ細かな指導を展開していく。
A5 学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。 〔全〕 【数値目標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 95.5% 「学校はいじめ対策を積極的に公表し熱心に取り組んでいる」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 83.2%	① 「いじめ防止基本方針」を策定し、保護者および地域に周知するとともに、方針に沿っていじめの防止に努める。 ② いじめの早期発見・早期対応のため、年度当初にいじめの実態調査の日程を決めて定期的の実施して実態把握に努めるとともに、年に2回定期教育相談を実施して問題の早期発見や信頼関係の醸成に努める。	A	A5について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 95.5%, 保護者 83.2% とともに指標を達成した。児童の肯定的回答率が高いことから、児童は教師がいじめを許さないという姿勢で指導していることを強く感じている様子が見える。 ・昨年度は保護者の肯定的回答が指標に達しなかったために、今年度は学校の「いじめ防止基本方針」に沿った取り組みの周知を積極的に図った。その効果が表れた結果となった。 【次年度の方針】 ・全校縦割り班によるいじめ撲滅のための集会の実施、年間3回のいじめアンケートの実施など、いじめの早期発見や防止のための取組を継続し、いじめのない学校づくりに努めていく。また、学校自由参観日や各種便り等を通して、学校のいじめ防止のための方針や取組を保護者や地域に周知していく。
A6 学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 92.8% 「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 97.7%	① 日課は、子どもにとってゆとりと秩序のあるものになるよう適切に実施する。 ② 新学習指導要領及び小中一貫教育の趣旨を踏まえ、学校スタンダードに示す取り組み実践するよう、各教科等年間指導計画・各種教育年間指導計画を見直すとともに、本校独自の教育活動を推進する。 ③ 学校行事は、その都度評価し、改善すべき点について検討して次年度に生かす。	B	A6について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 92.8%, 保護者 97.7% で指標を達成した。 ・①については、昨年より A 日課と C 日課で3校時以降の授業の開始時刻を合わせたことによる効果大きい。 ・学校行事についても、実施の都度評価を行い、改善するようにしてきた。 【次年度の方針】 ・①については、次年度も現在の日課を継続実施していく。 ・②については、今年度実施した、地域と連携した授業や、地域の施設訪問で一定の効果があつたものについて、各種年計に加え自校化していく。 ・③については、次年度も早めに評価を行い、結果をもとに改善していくように努める。

A7 学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「学校は学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者肯定的回答80%以上 保護者 96.7%	① 学校だより、学年だより、保健だより、図書館だより、食育だより等様々なたよりの作成において、関心を高める紙面の工夫に努めながら積極的に発信提供したり、ホームページを適宜更新したりして、保護者や地域住民に学校の取り組みを知らせる。 ② 授業参観、学校自由参観日、学校行事等において積極的に保護者や地域住民に学校を公開し、アンケートを実施して保護者や地域住民の意見を学校経営に反映させる。	B B	A7について 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答率 96.7%で指標を達成した。また、教職員、地域住民ともに肯定的回答 100%であった。 ・①の各種たより等については、時季を考慮した話題を取り上げたり写真を多く入れたりと関心を高める工夫を行ってきた。また、写真による情報提供の効果を高めるために学校だよりについては、カラー印刷にしたが、保護者や地域住民に好評だった。 ・②についてはアンケートだけではなく、担任を通して感想等も求めるようにし、保護者や地域住民の声を改善に生かせるようにしてきた。 【次年度の方針】 ・①②継続
A8 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 93.2% 「学校は家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者肯定的回答80%以上 保護者 97.6%	① 学校支援ボランティアの活用や出前授業、校外学習などにおいて地域の人材や施設・設備等の教育力を生かした学習を充実する。 ② 「魅力ある学校づくり地域協議会」において、児童の健全育成を目指し、学校・家庭・地域の連携を深める事業を推進しながら交流の輪を広げる。	B A	A8について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 93.2%、保護者 97.6%で指標を達成した。 ・①②ともに、地域協議会や地域住民の協力により、地域人材を学習活動に取り入れた効果的な活動を展開することができた。 ・児童が課題解決の方策として、地域教材や人材を広く求め、より深い追究をすることができた。 【次年度の方針】 ・学校として、年間を見通した外部講師への依頼内容をまとめ、地域協議会等の組織を機能させて交流を深めていく。 1年：昔遊び 2年：地域探検 3年：郷土資料館見学・地域のスーパー見学 4年：給食センター栄養士との連携 5年：福祉センター見学・ぼうじぼ作り 6年：博物館との連携
A9 学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「校内は、学習にふさわしい環境となっている」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 96.4% 「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者肯定的回答80%以上 保護者 96.7%	① 校舎内外の美化に努め、児童自ら日常的に清掃活動に取り組むよう支援し、快適な学習環境作りを目指す。 ② 日々校舎内外の巡視をするともに、月1回施設・設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕を迅速に行い学習環境の整備に努める。 ③ 適切に予算を執行し、指導計画に基づいて教材教具を整備してその適切な活用と管理に努める。	B B B	A9について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 96.4%、保護者 96.7%で指標を達成した。 ・①については、毎日職員が朝の清掃を実施している。児童も校内美化に努めている ・②については、校舎内外の環境整備や、備品管理作業等を計画的に実施してきた。 ・③については、予算の執行についての情報交換を密に行い、予算を計画的に使うことができた。 【次年度の方針】 ・①②③いずれにおいても、定期的に備品整理を行うとともに、計画的に教具・教材の整理・整頓を行っていく。

教育活動の状況①	B1	教職員は情報を伝え合い解決に向けてそれぞれの役目を果たしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「情報を伝え合い解決に向けてそれぞれの役目を果たしている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 教職員 100%	① 管理職及び職員間の報・連・相を大切にし、互いに声をかけ合うと共に、「報・連・相」を心がけ共通理解に努め協力し合う。	B	B1について 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率 100%で指標を達成した。 ・①②ともに、全教職員で情報を共有したり、問題が起きた場合は、関係する教職員が一人丸となり解決に当たったりしてきた。また管理職に常に正確な情報が伝わるように組織を整え、適切な対応ができるよう努めてきた。 【次年度の方針】 ・①②継続
		A10 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時や場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上 児童 96.4% 保護者 80.3%	① 各学年の「あいさつ名人」表彰や、地域協議会のあいさつ運動で意識を高めながら、日々の生活指導の中で明るいあいさつや元気な返事ができる子の育成を目指す。	A	A10について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 96.4%、保護者 80.3%で指標を達成した。教職員、児童の肯定的回答率がかなり上昇していることから、児童が進んであいさつができるようになってきていることがわかる。 ・①については、地域協議会では年間 10 回、小中一貫教育の取組として中学生とともに年間 2 回、合計 12 回の、地域ぐるみのあいさつ運動を実施した。 【次年度の方針】 ・新しい取組として、平成 26 年度から「あいさつ名人」の表彰を始め今年度も継続してきた。顕著な効果を上げつつあるので、次年度もさらに内容を充実させて取り組んでいく。
		A11 児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 90.5% 「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80% 保護者 72.6% 地域住民 93.8%	① 相手の気持ちを考えた言葉づかいや場に応じた言葉づかいができる子の育成を目指し、生活と学習の両面から日常の指導を充実させると共に、道徳の時間の重点項目に掲げて指導の徹底を図る。	B	A11について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 90.5%、保護者 72.6%、地域住民 93.8%で、保護者は指標に届かなかったが、昨年度よりは上昇している。 ・教職員の肯定的回答率も 71.4%と低く、本校の課題となっている。 【次年度の方針】 ・職員室への入室の際のあいさつの仕方、休み時間の会話における言葉づかい、日常的な友達の呼び方等、様々な場面で望ましい言葉づかいの例を示し、教職員の共通理解のもとで徹底して指導に当たっていく。 ・学級懇談会や家庭訪問、個人懇談等でも「言葉づかい」について話題として取り上げ、家庭と連携を図り指導にあたりたい。
			② 朝の会や会話科、学級活動等で、時や場に応じた適切な言葉づかいができるよう、学年の発達段階に応じた指導をする。	B	

健康・体力	B2 児童は学級や縦割り班の活動などで、仲よく助け合って生活している。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、縦割り班の活動で仲良く助け合って生活している。」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 95.9%	① 日々の清掃活動や学校行事、月1回の異学年遊びなどで、縦割り班での活動の機会を設定し、学年の枠を超えて協力して仕事や活動ができるようにする。	B	B3について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は95.9%で指標を達成した。縦割り班での活動が充実している様子がうかがえる。 【次年度の方針】 ・現在の縦割り清掃や遊びの他に、ボランティア的な活動も取り入れ、さらに異学年交流のよさを生かしていく。 ・班の担当教職員が縦割り班の活動を6年生のリーダー性を培う場としてもとらえ、指導の工夫を図るように努めていく。
	A12 児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 95.0%	① ミニмум達成のための運動プログラムを実施して運動の日常化に努めながら、教科体育においては授業の開始に当たってサーキットトレーニングを実施し個に応じた体力づくりに努める。 ② 学級においては、水曜日のロング昼休みに共遊の時間を確保するように努め、体力向上を目指すとともに学級の人間関係の構築を図る。	B A	A12について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は90.8%で指標を達成した。 ・①については、サーキットトレーニングを取り入れ、発達段階を考慮しながら体力づくりを進めてきた。また、地域学校園で検討した水泳検定表を使用し、中学校との一貫性を図っている。 【次年度の方針】 ・①継続 ・②については、各学級で計画を立て、よりよい人間関係の醸成と体力向上の両方の視点から、内容を充実させて実施していく。
	B3 児童は早寝、早起きの習慣が身に付いている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、早寝、早起きの習慣が身に付いている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上 児童 82.9% 保護者 75.0%	① 「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性について啓発を進めるとともに、早寝・早起きの習慣の定着の様子を把握し、実態に応じて基本的な生活習慣の確立に努めたい。	A	B3について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率82.9%、保護者75.0%で保護者は指標に届かなかった。 【次年度の方針】 ・基本的な生活習慣の確立の重要性と、それらの実現度と学力の相関が高いことについて、学年懇談会や各種便り等を通して訴え、児童の自覚を促すとともに、保護者の啓発も図っていききたい。
	A13 児童は、好き嫌いなく給食を食べている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、好き嫌いなく給	① 学校栄養職員の取組みを生かし、教室やランチルームでの給食指導の充実を図ったり、保護者への啓発に努めたりしながら、望ましい食習慣を育て食事のマナーを身につけさせる。	A	A13について 【達成状況】 ・児童肯定的回答率は84.7%で指標を達成したが、保護者は69.4%で指標には届いていない。昨年度は児童の肯定的回答率も指標に達していなかったが、今年度は児童の数値が昨年度の数値より5%上昇し、指導の効

	食を食べている。」 ⇒児童の肯定的回答 80% 以上 児童 84.7% 「自分の子どもは、好き嫌 いなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80% 保護者 69.4%	② 食事をとることの大切さにつ いて、学年に応じた授業を通して 理解を深め、自ら実践する態度を 育てる。	A	果は上がっている。また、教職員と地域住 民はともに 85%だった。 ・ランチルームでの会食時には、献立につ いて、栄養のバランスや食材等の情報を伝え、 食育指導をその都度行っている。また、偏 食のある児童に対しては、少しずつでも食 べるように個別に指導している。 【次年度の方針】 ・①については、学校栄養職員が授業に参加 するなどの工夫をして指導を行っていく。 ・②については、栄養に関する内容の授業を 公開したり、保護者対象の食育に関する研 修会を開いたりして保護者の食育への関心 を高めていく。
学 習	A14 児童は、授業中に進 んで話し合い、分か りやすく発表するな ど積極的に学習して いる。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は授業中に進んで話 し合い、分かりやすく発 表するなど積極的に学習 している」 ⇒児童の肯定的回答 80% 以上 児童 91.9%	① 授業では、聞く態度の定着を基 盤に、基礎・基本の徹底を図ると ともに、様々な学び合いの中で 「練り合う」場面を設定し、「話 す」力を高めながら、自分の考え を堂々と表現できる児童を育て る。	A	A14について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 91.9%で指標を達成 した。教職員と地域住民の肯定的回答率は 100%であり、児童がより積極的に学習に取 り組んでいる様子がうかがわれる。 ・教職員においては 5%数値が向上し、学習態 度が受け身だというこれまでの課題が解決 されつつある。 ・各教室に『「目・耳・心」で聞くこと』『「は っきり、ゆっくり、大きな声で」話すこと』 など、聞き方や話し方について具体的に掲 示した効果があがった。 ・言語活動を意識した学校課題を掲げ、教員 の研修を深めたことにより、児童の学習意 欲も向上した。 【次年度の方針】 ・①②ともに、児童の実態を的確に把握し、 実態に即した方策を立てて、さらに言語活 動への意欲を高めていきたい。また、基礎・ 基本の定着を図るとともに、それらを活用 して表現する場の設定を工夫していく。
	B4 児童は自主的に学習に 取り組むなど、学習習 慣が身に付いている。 〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は自主的に学習に取 り組むなど、学習習慣が 身に付いている」 ⇒教職員・児童・保護者の 肯定的回答 80%以上 教職員 95.0% 児童 79.3% 保護者 72.6%	① 職員間で共通理解を図り、児童 が自主的に学習に取り組めるよ うに自主学習ノートや音読カー ドなど、具体的な方策を立て継続 して指導していく。	A	B4について 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率 95.0%と高い数値を 示し、学校では自主的に学習に取り組む態 度が身に付いていることがわかる。しかし 児童は 79.3%、保護者は 72.6%と指標を達 成していない。 【次年度の方針】 ・今後も、児童の学習に対する興味・関心を 高めつつ自主的に学習に取り組めるような 指導方法を工夫し、取り組んでいく。 ・②の家庭学習については、家庭と連携を図 り、家庭学習の習慣を身に付けさせていき たい。

	A15 児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上 児童 88.7% 保護者 92.5%	① 学習の基盤となる学習態度や学習技能を身につけるために、学校全体で「学習のきまり」を決めて継続して取り組み、系統的発展的指導に努める。 ② 「話の聞き方」については、全教育活動を通して、学年の発達段階を踏まえつつ、全職員による共通理解のもとで育成する。	B B	A15について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 88.7%、保護者 92.5% で指標を達成した。 ①の「学習のきまり」について共通理解を図って指導したことは効果的であった。 ②については朝会や集会の際も「話は目と耳と心で聞く」ことを各担当者が呼びかけた成果が見られた。 - 言語活動の充実を掲げた研究の成果により、自分の考えをもって、落ち着いて学習に取り組む児童が増えてきた。 【次年度の方針】 - 落ち着いた環境の下で、真剣に学習に取り組むことの重要性を全職員で共通認識した上で、今後も研究を継続していく。さらに、発達段階に応じた聞き方について、掲示物等で段階的に示し、発達段階に応じた聞き方ができるようにしていく。
	B5 食農体験活動は、農業や食の理解や関心を深めるために大切な活動である。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「食農体験活動は農業や食への理解や関心を深めるために大切な活動である」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上 児童 96.4% 保護者 97.7% 地域住民 100%	① 全児童が食農体験事業で田植えや稲刈りを体験したり、5年児童が総合で稲の観察や世話などを実践したりすることで農業や食への理解や関心を深める。	B	B5について 【達成状況】 - 児童肯定的回答率は 96.4%、保護者 97.7% 地域住民 100%で指標を達成した。 - 食農体験では、収穫した米で、各学年がおにぎり作りや弁当づくりに取り組むことができた。同時に、稲の生育についての関心を高めることもでき、食育の面での成果も見られた。 【次年度の方針】 - 次年度も地域の方や地域協議会委員の協力を仰ぎながら、継続して取り組んでいきたい。

〔総合的な評価〕

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組に関わる内容は文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

1 学校運営について

- 各種便り、ホームページ、オープンスクール等により、学校の現状や教育活動について積極的に情報を提供することができた。その結果、多くの項目で指標を大きく上回り、児童はもちろんのこと、保護者、地域住民ともに学校に対して、深い信頼と期待を寄せていることがうかがわれた。
- 教育活動においては、地域人材や地域施設と連携した授業を展開することができ、地域と連携した教育活動が展開された。地域ボランティアについても、数年間継続して協力してくださる方々の他に、今年度からは低学年の下校時の見守りボランティアを新しく登録するなど地域に広く協力を依頼してきた効果が表れてきている。
- 小中一貫教育では、乗り入れ授業や小学 6 年生による中学校訪問、宿泊学習における合同活動など、地域学校園としての交流を行うことができた。

2 教育活動の状況について

- 教職員の回答状況から、教職員が自らの使命を自覚し、誠実に教育活動に取り組んでいることがわかった。学習指導では、今年度も昨年度に続き、言語活動の充実を学校課題として掲げ、全教員が授業を互いに見せ合うなどして、指導方法の工夫と改善に取り組む、教職員の指導力向上につながった。その結果として、児童の学習意欲の向上や話し合い活動の活性化につながった。
- 児童指導については、昨年度より「あいさつ名人」の表彰をはじめ、あいさつの励行を奨励するとともに、地域協議会と連携・協力して地域ぐるみであいさつ運動を展開した成果が見られた。教職員、児童、保護者とも一昨年から課題であったあいさつに関して教職員、児童、保護者の結果から、一定の評価が得られていることがわかる。いじめについても、いじめ撲滅集会の実施や、いじめアンケートの実施など、日頃から学校全体でいじめを生まない素地づくりに努めるとともに、訴えがあった場合は、素早く組織的に対応したことの成果がうかがわれる結果となった。
- 健康・体力に関しては、「好き嫌い」について保護者のみ指標には達していないが、児童は昨年より数値が上昇し指標に達したことは、これまでの取組の成果であり今後も継続していきたい。

3 本校の特色について

- ・本校独自の地域に密着した活動は、教育的効果が高いことが明らかである。田植え、稲刈り等の食農体験は、本校の伝統となるように、地域の協力を得ながら今後も継続していきたい。
- ・ぼうじぼづくりや、お年寄りとの昔遊びなど、特定の学年を対象とした、地域ボランティアとともに活動する取組も、確実に定着しつつあり、今後も地域協議会等の協力を得ながら継続していきたい。

6 学校関係者評価

1 保護者の結果から

- ・多くの項目で指標を達成しており、学校の方針や活動に満足している状況がうかがわれる。
- ・昨年度からアンケート項目に加えられた、学校におけるいじめ防止への取組に関する保護者の肯定的回答率は、昨年は指標に届かなかったが、今年度は約8%数値が上昇し指標を達成した。昨年度の反省を踏まえ、学校の方針を伝える機会を設けたり、各種のたよりで啓発を図ったりした成果が表れている。
- ・本校の課題であった「あいさつ」に関しては、保護者の肯定的回答率も指標に達し、すべての対象者で指標を達成した。特に児童は昨年より4%ほど数値が上昇している。学校における「あいさつ」の励行を目指した各種の取組の成果であると考えられる。今後はこうした成果を家庭や地域にも波及させていくことが必要であり、家庭への呼びかけをさらに強化していきたい。
- ・言葉遣いに関するアンケート結果についても保護者の数値は指標に届かなかった。教職員の肯定的回答率も顕著に低いことから、「時と場に応じた言葉づかい」については次年度も重要な課題として取り組んでいきたい。

2 地域住民の結果から

- ・すべての項目で肯定的回答率は90%を超えており、学校の方針や活動状況を信頼している状況がうかがわれる。半数以上の項目で100%という素晴らしい結果が得られた。
- ・今後はさらに連携を図り信頼される学校づくりに努め、地域に根ざした学校経営に尽力していきたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

今年度も、昨年度より肯定的回答率が上がった項目が多く、教育活動が順調に実施されてきたことが分かる。昨年度の学校評価および本校独自の教育課程評価結果を踏まえ、課題意識を持って、教職員が日々の教育活動を計画的に実施してきたことがよい結果につながったものと考えられる。

次年度も積極的に情報を公開したり、保護者や地域からの要望を学校教育へ反映させたりして、学校への期待や信頼に応えられる学校づくりに取り組んでいきたい。

保護者の回答からは、学校の情報提供や連携について評価しているものの、「好き嫌いをなく食べる」「言葉づかい」など、児童の基本的な生活習慣の状況について課題意識をもっていることが明らかとなった。そこで、次年度も「共に子どもを育てる」という視点で、今まで以上に家庭とも積極的に連携を図っていきたい。

具体的な方策として、今年度から回数を増やした授業参観や保護者懇談会について、次年度もその回数を継続することで学校からの情報公開と家庭への協力を仰ぐ機会としたい。

また、「好き嫌いをなく食べる」、「言葉づかい」に関しては、地域全体にも関わる課題として、地域学校園の話し合いにおいても話題に取り上げ、改善に向けて努力していきたい。

また、小中一貫研修会では、教科部会において小中学校の情報交換が行われ、小中9年間を見越した連携がなされた。次年度も学力向上に向けて、上河内地域学校園として学習のきまりや家庭学習等、上河内4校が足並みを揃えて取り組んでいきたい。